



Photo：座喜味城跡（局職員撮影）



琉球歴史散歩

座喜味城跡について

(表紙写真)

沖縄本島西側に位置する読谷村には、標高約一三〇メートルの高台に建てられた座喜味城跡があり、そこを頂点として台地がなだらかに広がって、その地先には海が輝いています。この座喜味城は、護佐丸という按司（豪族）によって築城されました。

十五世紀初頭の沖縄は南山、中山、北山という三つの勢力に別れており、琉球統一を目指した南山地域の佐敷按司であった尚巴志は、北山攻略へと向かいます。護佐丸は、尚巴志に従軍し北山の根城である今帰仁城を攻め落とすと、そのまま北山監視のため今帰仁城へ留まります。そこから座喜味城を築城させますが、建設の際には、北山の勢力下にあった奄美大島などからも人夫を徴用したと言われています。

一四二二年、護佐丸は完成した座喜味城へ居を構え、王府に中城城へ移るよう命じられるまでの十八年間、ここで過ごしたとされています。護佐丸が城を出た後も十六世紀頃まで座喜味按司に引き継がれていたようですが、その後、長い間使われなくなり、戦時中は、日本軍の砲台が設置され、戦後は米軍の通信基地として使用されていました。復帰後は逐次史跡が整備され二〇〇〇年には世界遺産に登録されています。

座喜味城跡の城壁に上ると、北には恩納岳から本部半島、南には海を挟んで慶良間列島、西には嘉手納弾薬庫地区の緑と嘉手納飛行場が遠望できます。かつては、象の檻と言われていた楚辺通信所のアンテナも見られましたが、SACO最終報告の合意に基づき隣接する読谷補助飛行場と伴に返還され、アンテナは撤去されています。



沖縄防衛局の業務について

防衛施設は、我が国独自の防衛力である自衛隊と日米安全保障体制の中核をなす在日米軍の活動拠点として防衛の基盤となるものですが、それらの機能を十分に発揮させるためには、周辺地域の皆様の理解と協力を得ながら円滑に使用していく必要があります。

沖縄防衛局では、防衛施設の取得・建設・管理など様々な施策を行うほか、防衛行政全般の地方拠点として地元への丁寧な対応に努めております。

今回は、沖縄防衛局の業務について、その概要をご紹介します。

防衛施設の取得・管理



嘉手納飛行場

- ・面積約2,000ha（成田空港の約2倍）
- ・土地所有者：約9,300人
- ・年間借料額：約250億円

沖縄県には、県土面積の約10%、本島面積の約18%が米軍専用施設・区域となっており、その他、自衛隊施設が所在しています。

これら防衛施設用地のうち、極東最大といわれる嘉手納飛行場を始めとする米軍専用施設用地（約229km²）の約66%、自衛隊施設用地（約7km²）の約85%は民公有地で、土地所有者の数はおよそ4万人となっています。

当局は、これら土地所有者の方々とは賃貸借契約を締結するなどして土地の使用権原を得ているところです。

また、借り上げている用地などの他、国有財産としての土地や建物、工作物があり防衛施設として使用されているこれらの財産の維持、管理などを行っています。

防衛施設と周辺地域との調和を図るための主な施策

自衛隊や在日米軍は、防衛施設周辺の皆さんの暮らしに配慮しながら活動しています。しかしながら、航空機の飛行や、演習場での訓練などでどうしても影響を及ぼす場合があります。

当局は、これらの影響を防止、軽減、緩和するための様々な施策を行っています。

目的	施策
騒音障害を防ぐ	学校や住宅などの防音工事の助成 移転補償や緑地帯の整備
騒音以外の障害を防ぐ	河川改修や砂防ダムなどの障害を防ぐ工事の助成
生活・事業上の障害をやわらげる	学習等供用施設や公民館などの民生安定施設の助成
周辺地域への影響をやわらげる	公共用施設の整備などに使用できる特定防衛施設周辺整備調整交付金の交付



「騒音障害を防ぐ」学校の防音工事（那覇市）

米軍基地の整理・縮小・統合への取組

沖縄県には全国の米軍施設・区域（専用施設）の約74%が集中しており、我が国の平和と安全のために沖縄県の皆様には、様々な負担をかけている状況にあります。

「SACO最終報告」や「米軍再編」に盛り込まれた米軍施設・区域の返還などは、沖縄県の皆様にとって負担軽減に繋がるものです。当局は、これらの着実な実施に鋭意取り組んでいます。

米軍施設・区域の返還補償等



旧工兵隊事務所：浦添市にあった同事務所は、平成14年に返還され、現在はショッピングセンターとなっています。

米軍が使用していた土地が返還される場合には、物件撤去、返還財産補償、土壌汚染調査等を行った上、土地所有者に引き渡しを行っています。

また、返還後、当該土地の所有者が使用、収益又は処分していない場合には、返還日の翌日から3年を限度とする返還給付金を支給しています。

昭和47年5月の復帰時から平成20年3月末までに、約56km²の提供施設面積が返還され、これら用地は、主に土地区画整理事業や土地改良事業などにより開発がなされています。

漁業などの補償



セリ風景

在日米軍の行う訓練などにより、一定の区域及び期間を定めて漁船の操業を制限し、又は禁止することができますが、これらの制限や禁止により、制限水域設定以前より漁業を営んでいた方が漁業経営上の損失を被った場合には、通常生ずべき損失として補償を行っています。

また、制限水域設定後に漁業を営んだ方に対しては、漁船の操業制限等による損失の補償を受けられないことから漁業見舞金を支払っています。

さらに、在日米軍による航空機の頻繁な離発着などで、農業、漁業などを営んでいた方々に損失を与えた場合にも補償を行っています。

損害の賠償

当局は、日本国に駐留するアメリカ合衆国軍隊またはアメリカ合衆国軍隊の構成員及び被用者の行為等により被害を受けられた方に対する損害賠償を行っています。当局としては、米軍人・軍属等による事件・事故が起こらないように、平素から米軍に対し様々なレベルで隊員教育、綱紀粛正及び安全管理の徹底を図る等、事件・事故の防止について実効ある措置を講じるよう強く要請を行っているところです。

在日米軍労働者の労務管理



従業員の永年勤続者表彰

当局管内には、多くの在日米軍施設・区域が所在しており、これらの在日米軍施設では約9,000名の駐留軍等労働者(従業員)が勤務しています。

当局は、この従業員の雇用主として、労務管理等事務(労働契約の締結、給与支給額の決定及び支払など)を行っています。

また、従業員の募集、給与の計算及び福利厚生の実施などの事務については、独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構那覇支部及びコザ支部が当局と連携しながら行っているところですが、本年4月には、これら2つの支部が統合され、労務管理機構沖縄支部となって嘉手納町へ移転する予定です。

防衛施設の建設工事

当局における建設工事は、自衛隊のための施設の整備や公務員宿舍の整備、在日米軍へ提供する施設の整備、在日米軍施設・区域の返還に伴う施設の移設を行っています。

さらに「SACO最終報告」や「再編実施のための日米のロードマップ」に盛り込まれた措置の実施に伴い在日米軍へ提供する施設の整備や移設があります。



【自衛隊施設整備】
陸自・那覇基地内
—航空機整備場—



【SACO 事案】嘉手納
飛行場洗機施設移設
—洗機施設—

直言コーナー



琉球放送記者
嘉手納 央 揮

安全保障の
枠組みで語ら
れる沖縄の基
地問題は、ど
こか他人事の
ように聞こえ

る。合理性を追求した米国の戦略、日米同盟をかさに抑止力の維持と国益を優先させたい日本政府。米軍再編で沖縄の負担軽減を打ち出している日米両政府だが、そこに基地とともに暮らす県民の姿は本当に含まれているのだろうか。

基地問題を担当することになり、間もなく一年になる。広大な米軍基地の近くで育った私にとって、基地の存在は日常の風景だった。取材を通して見聞きしてきた理不尽な基地被害の現状。それを訴える住民たちの切実な声は、基地のある日常が矛盾に満ちたものだどと気付かせてくれる。中々変わらない現状にもどかしさも感じるが、伝え続けなくてはいけない事は何か一日々、自問自答している。

今や沖縄の基地問題の象徴となつていく普天間基地。返還合意から、今年で十三年になるが、移設の実現性は未だ疑問視され、中央からは「沖縄疲れ」の声も聞かれる。地元と国の対立という単純な

構図で語られることが多いこの問題だが、それぞれの思惑が複雑に絡み、県民には非常に見えにくい。「孫の代、その孫の代まで自立して安心して暮らせる北部にするためだ」。受け入れ先となる北部の首長経験者がこう語っていたが、それと引き換えに失うものは何なのか。

一方で海を越えた米国では、初の黒人大統領に大きな期待が寄せられている。国際協調路線を進める新政権とともに東アジア情勢の改善が進めば、前政権時代につくられた再編計画の見直しはあるのか。それが沖縄の基地政策にも「変化」をもたらすのでは―遠い小さな島国にとっても大きな関心事だ。

基地問題の解決に国の役割は欠かせない。沖縄防衛局は、沖縄の防衛・基地行政を担うことはもちろん、地域に近い国の機関として、そこに暮らす住民たちの表情や声に直に接することが出来る。中央との温度差を埋める存在であつて欲しいというのが、県民の求めていることだと思う。

私たち報道機関にも同じことが当てはまる。歴史的な背景も絡み非常に複雑な基地問題を、まだまだ未熟な私なんぞが偉そうに語るのはおこがましいのだが、地元メディアだからこそ伝えられることを常に考えていきたい。

新人紹介
(平成21年1月1日採用)



入局して少しずつ職場にも慣れてきました。初めて知る事がたくさんあり、勉強の毎日です。家から嘉手納まではとても遠いのですが、ドライブが好きなので毎日楽しみながら通勤しています。コツコツと頑張つて、一步一步成長していけたらいいなと思います。よろしくお願いします。
施設取得第1課 伊佐美奈枝



車の運転を始めて間もない私ですが、豊見城から嘉手納まで毎日楽しく通勤しています。趣味はスポーツで学生時代には、サッカー、ハンドボールをしていました。また、バイクがとても大好きなので、興味のある方は声をかけてくれたら嬉しいです。一日でも早く仕事に慣れ、安心して仕事を任せられるように頑張りたいです。
会計課 高里勇輝



那覇防衛事務所に採用された垣花と申します。出身は豊見城市の翁長で、あので〜じ有名なジョン万次郎が立ち寄ったといわれる高安家の近くに住んでいます。小学生の頃にサミットで沖縄を訪れたクリントン大統領と握手をした事が僕の自慢です。趣味は体を動かす事で、休日は野球や釣りを楽しんでいます。特に釣りが大好きで今いいポイントを探しています。仕事ががんばりまウィッシュ!!
那覇防衛事務所 垣花大輔



今年の1月から沖縄防衛局に採用されました。社会人なるということもあり不安はありましたが、明るい人がいっぱいいる職場なので楽しく過ごせています。趣味はバスケットなので休日に友達と体を動かせたらいいなと思います。
施設管理課 真栄城雄一



私はバドミントンが好きで最近やり始めたのですが、防衛省に1月から採用になったということで自分が好きなバドミントンは忙しくなって当分出来ないのかなと思っていたのですが、今も週に3、4回のペースでサークルなどに通っています。仕事も趣味も両立できるように頑張りたいです。
金武防衛事務所 松茂良陽一



専門学校日経ビジネス工學院の公務員速成科という1年のコースに、昨年の4月に入学しました。入学してまだ1年もたない内に沖縄防衛局から採用がきたので、とても驚いています。沖縄生まれ、沖縄育ち、好きな食べ物は一ツとタコライスです。
施設取得第3課 仲村優香